

こころ便り

第225号

平成30年12月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kininami@shingu.co.jp
電話079-1175-1212

本物を知る

一年の締めくくりがやってきました。そして、平成という元号も春には終わりを迎えることになります。新しい時代の始まりと喜んでばかりはいられません。東京オリンピックに大阪万博と昭和の時代を知る私たちの世代にとっては高度成長時代の再来のような形につながる一大イベントが次々にやってくることで時代の移り変わりを見せつけられる思いです。

初体験で立派に成功を収めるということとはとてもすごいことですが、そこに至るまでの努力や汗などは本人にしか分からないものです。便利な時代になってマスクミがあたりかまも本人に成りすましたかのようにニュースにしていきます。テレビでそんな面白おかしいドラマのように作られたものを観て簡単に信じてしまうというのが昨今の特徴とも言えます。大衆を味方につけるには、テレビやマスコミを巻き込んでいく力を持った者が勝利を収めることになります。しかし、その先に何が待っているのかと考えるとクイズ番組の「大当たり!!」は絶対にやってきません。なぜか。それは、偽物だからです。私たち一人ひとりが本物を知っていたなら、捏造されたようなニュースに一喜一憂することはありません。考えてもみてください。

慰安婦問題は、朝日新聞が申し訳ありませんでしたと謝罪広告まで出していながら、事実であったと認識している人の方が多いのです。

面白おかしくにぎやかにみんなが騒ぐことで社会が良くなっていくのなら、そんな楽なことはありませんし、それが本当なら今頃は天国が実現されていてもいいと思えるのです。悲しいことになり、便利になればなるほど人間の心は荒んでいくようになってきました。自分の国や地域だけが良ければいいと、目先のことをばかりを優先するようになり、百年先を考えて子孫のためになどと訴える声など聞こえなくなりました。自分たちの時代に好きなものを食い尽くし、やりたい放題で楽しめばいいのか。私は「本物」というものに触れてきて、このままではいけないと強く感じるようになりました。自らが汗して、美しい街を子供たちのために掃除を通じて示していきたいと考えています。

大リーグで活躍するあの大谷翔平選手が、中村天風や松下幸之助の本を読んでいると聞いて嬉しくなりました。

本物を知ろうとするなら、まずは「ニセモノ」を知ることです。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拜

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

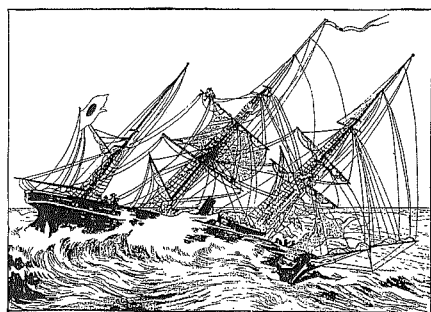
第十五課 勇氣

安芳 勝海舟

安芳は幕府の命を受けて長崎に行き、オランダ人について航海術を学びました。修業がすんでからもつづいて長崎に留つて、血氣盛りの海軍練習生を教へ、九州の近海で、あちこちと航海を試みました。

間もなく、幕府は使をアメリカ合衆國へやることになりました。其の時、使は合衆國の軍艦にのせ、別に日本の軍艦を一そうやるといふうはさがありました。安芳はそれを聞いて、我が航海術の進歩を見せるには、この上もないよい機會だと思つたので、自分の教へた部下をさしづして日本人の力だけで航海をしたいと願ひ出ました。

何分我が軍艦を外國へやるのは始めてのことであり、まだ練習も十分に積まない日本人だけではあぶないと思つたので、幕府は容易に許しませんでした。しかし、安芳があくまで願つてやまないで幕府も遂に其の熱心と勇氣に感じて、咸臨丸といふ小さい軍艦で安芳等をやることにきめました。



航海中は毎日のやうに雨風が續いて、海が大そう荒れました。嵐がはげしい時には、船體がひどくゆれて、ねち折られさうになつたことが幾度もありました。しかし、安芳等は少しも恐れず、元氣よく航海をつづけ、日本を出てから三十八日目にサンフランシスコに着きました。アメリカ人は、日本人が航海術を學んでからまだ間もないのに、少しも外國人の助を受けずに、小さい軍艦で、よくも太平洋を無事に越えて來たものだ、と、大そう感心しました。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。